

連合駿台会報

No.316 平成26年7月15日発行
発行・編集 連合駿台会

発行人 広報委員長・齋藤柳光
編集人 事務局・矢嶋まゆ子
〒101-0052 千代田区神田小川町三十二
明治大学「紫紺館」内
電話 (〇三) 三二九六―四七四七
印刷 有限会社 美創

第六十回連合駿台会総会を開催

第六十回連合駿台会の通常総会が、平成二十六年五月十六日、明治大学「紫紺館」三階会議室で開催されました。

まず山口政廣会長が開会を宣言し、規約の第五章・第十三条に従い会長が議長となり、坏昭二専務理事の議事進行により、議案の審議が進行されました。

○第一号議案

平成二十五年度事業報告書、収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表・財産目録の報告、ならびに監事による監査報告承認の件

▽平成二十五年度の事業報告（①例会・総会、②理事会、③その他〈特別行事（若手の意見交換会・明治大学施設見学会・オープンゴルフコンペ・ビジネス勉強会・シンフォニー東京湾クルーズ・新入会員歓迎会）・正副会長会・運営委員会・各委員会〉、④会報

発行、⑤会員状況）について、坏専務理事から報告があった。今年の顕著な点は、ほとんどの例会の参加者が百名を超えたことである。特に、三月例会は「連合駿台会創立六十年記念例会」となったが、ご同伴、大学からの招待者も含めると二百名近い方にご出席いただき、盛大な会となった。また多くの特別行事も開催され、会員の親睦に大いに役立ったと感謝している。各委員会活動も、特に組織・会員増強委員会は九回開催され、このため多くの新会員をお待たせすることなくお迎えすることができたと思う。会報は、従来通り隔月で年六回発行し、会員の皆さんに配布した。会員状況は、十二名増（休会者は除く）となり、昨年同様、期末の人数が期首の人数を上回ることとなった。ロータリークラブでも、先進国は会員の減少傾向が続いていることなどと比べると、この実績は各委員会の努力のお蔭であると感謝している。

▽平成二十五年度の収支計算書・正味財産増減計算書・年度末貸借対照表・財産目録につ

いて、谷慈義財務委員長から以下の報告・説明があった。

・「収支計算書」については、「収入の部」では、年会費収入は予算額1427万円に対し決算額1487万7055円で、60万円ほど多かった。年会費収入は一般会員・地方会員・新入会員入会金の三つの柱からなっているが、それぞれ予算額よりプラスになっている。例会費収入は242万円の予算に対し約340万円と、100万円ほど多かったが、これは六十年記念例会の収入が約170万円あったためで、それを差し引いて考えると、一般の例会費収入（四回分）は予算をやや下回った。広告費収入と雑収入はほぼ予算通り（対予算比約九割だった。

・「支出の部」では総務費関係はほぼ予算通り、事業費の各委員会運営費では、総務・事業委員会費が予算額600万円に対し決算額1029万5880円となっているが、これも六十年記念例会費・出演者謝礼による記念例会費支出が499万320円あり、これを除くと約530万円で、ほぼ予算通りの数字だった。組織・会員増強委員会費、広報委員会費もほぼ予算通りだが、大学支援委員会費が予算額275万円に対し、決算額205万4794円で、この差額は、連合駿台会学術賞・学術奨励賞

の報奨金において、学術賞受賞者の該当者がいなかったためと見られる。大学支援委員会の予算は、だいたい全予算の二割と考えて、300万円くらいが妥当と思っている。最終的には152万634円の赤字となったが、その原因は財務委員会の二十五年度事業報告の③に記した。六十周年記念例会に係る収支はマイナス328万2320円となるが、この中に通常の三月度例会費収支分マイナス25万円程度も含まれている。実質300万円ほどの赤字分を会から補填することについては、三月開催の臨時理事会で承認されている。

・「正味財産計算書」については、正味財産には一般正味財産と有志正味財産があるが、有志正味財産は1800万円で増減なし、一般正味財産には当期収支差額分が記載されるので、今期の残高は4153万8100円となった。これと有志正味財産を加えた5953万8100円が期末残高になる。「貸借対照表」では、「資産の部」が小口現金・みずほ銀行普通預金・ゆうちょ銀行普通預金・みずほ銀行定期預金・MMF・電話加入権を合計して6235万1090円、貸方「負債・正味財産の部」のうち未払金280万3820円は、六十周年記念例会の会場費として東京會館に支払うべき三月末の未払残高である。結果、合計

額は6235万1090円で一致している。普通預金では、みずほ銀行はよく使っているが、ゆうちょ銀行はほとんど動いていないので、資金運用という意味では、定期預金その他に回すべきと思っている。

▽監査報告(野口昌宏監事)

これらについて、規約第六章・第十八条の規定に基づき、五月十四日付けで野口昌宏監事・二宮充子監事が監査をした結果、会務の執行は当会の規約に従い、総会並びに理事会の決議に基づき誠実に行われており、一般会計はいずれも適正に処理されており、計算書類は本会の収支及び財産の状況を正しく示しているものと認められた。

第一号議案については、全員異議なく承認された。

○第二号議案

役員改選の件

今年度は改選期に当たするため、役員の改選の提案をしたという説明が山口会長からあった。

私は明治大学の評議員会議長を務め、制度改革のまとめもしなくてはならないため、留任させていただきたいと思っている。かねてより会長・専務理事と一緒に交代するのは、会の運営上まずいだろうということで坏

専務理事とも意見が一致していたので、今回は専務理事を交代していただくことになった。坏さんには今度とも会長の相談役として「会長付副会長」になっていただく。専務理事の後任は、組織・会員増強委員会副委員長の上西紘治氏に願う。

委員会では、総務・事業委員会は、木村委員長以下、全員留任。組織・会員増強委員会は、丸山委員長が長野に転居されるので、委員長には現副委員長の大原幸男氏、代わって高澤徹氏に副委員長をお願いする。担当委員として、佐藤仁氏・潮田伊佐夫氏・宇川一夫氏が加わる。広報委員会は藤巻氏が顧問に移られ、他は変わらず。大学支援委員会は、昨年他界された舟橋委員長の後を中川氏にお願いしたので委員長はこのまま、新たに副委員長に浅井宏氏、さらに担当委員として、小島清治氏・大前実之氏・林威樹氏に加わっていただく。財務委員会は眞田氏が顧問に移られ、新しい委員として徳丸平太郎氏が加わる。委員長は常務理事、副委員長は常任理事となつていただく。退任者は、退会された長谷川勝彌氏、休会された吉村國廣氏。

※新役員については、十ページの「運営組織表」を参照のこと。

第二号議案については、全員異議なく承認された。

○第三号議案

各委員会平成二十五年度事業報告および平成二十六年事業計画（案）・活動予算

（案）、並びに収支予算（案）承認の件

▽山口会長より平成二十六年度の連合駿台会活動基本方針に関しては、従来の方針を踏襲して、基本的にはこれで進めたいという報告があった。

*

▽総務・事業委員会 河村博副委員長

〈平成二十五年度事業報告〉

① 正・副会長会を一回、運営委員会を五回開催した。

② 新規会員の定着・懇親のための事業（ビジネス勉強会、新入会員歓迎会）を開催した。

③ 大学新施設（中野キャンパス・グローバルフロント）見学会を実施した。

④ 会員相互の親睦会（東京湾クルージング、オープンゴルフコンペ）を開催した。

⑤ 六十周年記念事業（三月例会に併せ）を実施した。

〈平成二十六年事業計画・活動予算（案）〉

① 平成二十六年年間計画に基づき、前年に引き続き事業を円滑に進める。

② 会員相互の親睦会（オープンゴルフコンペ・バス旅行など）を開催する。

③ 新規会員の定着・懇親のための事業（ビ

ジネス勉強会・新入会員歓迎会）を開催する。

④ 大学新施設の見学会を行う。

【活動予算】 600万円

▽組織・会員増強委員会 丸山律夫委員長

〈平成二十五年度事業報告〉

① 入会審査：九回（四月二十六日、五月十七日、七月十七日、九月十九日、十月二十五日、十一月二十日、一月二十二日、二月十八日、三月十二日）：三十一名審査合格

② 全体委員会：三回（新活動方針および会員増強について）

(1) 会員活動の推進について

(2) 入会資格の見直しおよび入会審査方法について

(3) 新入会員の定着方法の検討

・新入会者の意思確認

・事前の例会ゲスト体験

・若手会（入会一～二年の会員も含む）を二回開催

・各種イベントへの参加

〈平成二十六年事業計画・活動予算（案）〉

① 入会審査：七～十回（早く結果を出す）

② 会員増強目標：三十名（会員増強活動の推進法について）

③ 新入会員の定着方法のSTEP2を検討

④ 会員の例会出席率の向上策の検討

【活動予算】 35万円

▽広報委員会 斎藤柳光委員長

〈平成二十五年事業報告〉

① 会報（第三〇九号～三二四号）を刊行、トピックス取材掲載など紙面の充実に努力した。

② 会のホームページ（HP）の更新を毎月一回から二回と充実を目指して、事後の報告事項から事前の各種イベントや告知にも活用して、会報との連携をより強化した。これにともない、会の紹介パンフレットも内容を適宜差し替えて、会員増強などに役立つものとした。

③ 平成二十六年新年号（第三二三号）における高齢の名刺広告をより会員の事業やピーアールに貢献できるものにするために、一般広告も採用し、複数の社に協力をいただいた。

〈平成二十六年事業計画・活動予算（案）〉

① 会報HPをより活性化し、総務・事業、大学支援、組織・会員増強の各委員会および関連するあらゆる活動の告知や報告について恒常的に情報を公開して、当面は最低でも月二回の更新を確定できるように努めていく。この原稿作成については、主に広報委員が持ち回り

でフォローしていくが、今後は各委員会や会員有志から寄稿をお願いできるような幅広い参加態勢も整えていく。

- ② 広報活動を支援する情報ネットワークづくりを目指して、各会員のメールアドレスをMLなどに集約し、各種活動の円滑でスピーディーな連絡態勢を整えていく。将来的には全会員連絡網にも発展させ、メールマガジンなども定期発行して、情報の共有化をより充実するほか、大学や同種活動の関連HPなどもリンクする。

【活動予算】 208万円

▽大学支援委員会 中川敏洋委員長

〈平成二十五年度事業報告〉

- ① 学術賞・学術奨励賞は一月二十二日の駿台懇話会にて授与。本年度は学術奨励賞のみ三名。

- ② 連合駿台会寄付講座（明治大学リバティアカデミー）の前・後期実施。

・前期（六月二十一日）山本良一氏（Ｊフロントリテイリング社長・連合駿台会会員）

・後期（十一月八日）佐々木伸一氏（ルートレック・ネットワーク社長・連合駿台会会員）

〈平成二十六年年度 事業計画・活動予算（案）〉

- ① 学術賞・学術奨励賞は今年度も同様、選

考委員会にオブザーバー参加予定。

- ② 寄付講座は、前・後期実施予定。

- ③ 産学協同就業力養成講座（キャリア教育支援）は好評につき、引き続き昨年の会員三社に加え、山崎製パン(株)一社の協力をいただき、四社にて実施予定。

- ④ 新事業「留学生の支援」にチャレンジ。ホームカミングデー、お茶の水JAZZ祭、シェイクスピアプロジェクトを再度担当。

- ⑥ 委員会メンバーによる担当事業のユニットリーダー制を施行・運営。

【活動予算】 335万円

▽財務委員会 谷慈義委員長

〈平成二十五年度事業報告〉

- ① 当年度は、退会者が十四名、休会者が八名となったが、会員・増強活動の結果、新規入会者数が二十六名となり、四名の純増となった。

- ② 会費未納者数は二十一名で、会費未納率は六・二％、平成二十一～二十四年度の年度の平均会費未納率一一・五％と比較して大幅に改善されている。

- ③ 当期収支差額は、当初予算20万5000円に対して、▲152万634円の赤字となった。予算額に対して収入は150万5770円増加したが、支出

も323万1404円増加した。収入

超過の主な原因は、連合駿台会六十周年記念例会に係る収入170万8000円であり、例会費収入に含まれている。支出超過の主要因も、同例会に係る支出499万3200円であり、総務・事業委員会費に含まれている。同例会収支は▲328万2320円となるが、この中に通常の三月例会費収支▲25万円程度が含まれている。なお六十周年記念事業について、昨年度の総会において趣旨説明され、具体的内容については、平成二十六年三月十二日開催の臨時理事会において坏専務理事から再度説明と提案があり、当会から約300万円を補填することについて、既定の総務・事業委員会予算に追加する議案が、全員一致で承認されている。

- ④ 平成二十六年三月三十一日現在

☆会費納入見込み会員数：三百三十八名

一般：二百八十三名 地方：五十五名
☆会費納入者数：三百十七名（会費納入率九三・八％）

一般：二百六十四名 地方：五十三名

〈平成二十六年年度事業計画・活動予算（案）〉

- ① 年会費収入、例会費収入、広告費収入等の収入額に対応した支出の予算管理により、収支差額予算の達成を図る。

② 当会資産の運用、活用方法について協議し、財産基盤が損なわれないよう、使途などを提案する。

③ 当会の改革のあり方、大学支援の方法などについて提案する。

④ 内部管理のあり方について提案する。

【活動予算】 10万円

【平成二十六年 収支予算(案)】

① 収入の部では、年会費収入は1490万円、昨年度の実績とほぼ同じで、一般二百七十名、地方五十名、新入会員入会金分を三十名とした。例会費収入は夜の部・四回のうち三回を百十名、一回を百名、昼の部は九十名として、242万円と設定したが、これは昨年度と同様。他は実績とほぼ同額とした。

② 支出の部では、総務費は565万円で昨年度の実績とほぼ同額の予算となっている。総務・事業委員会費は昨年度予算と同じ600万円に、組織・会員増強委員会費は変わらず、広報委員会費は大学支援委員会費に回す分を減らして208万円に、大学支援委員会費は、昨年度実績はともかく、学術賞の賞金も加味して335万円とした。その結果、当期収支差額は1万円となり、赤字予算は避け、それをカバーできる収入を

確保する、安全かつ積極的に格調高い予算となっている。

▽これらの活動報告について、以下の質疑応答があった。

・会員の研鑽・親睦、出世率の向上、退会者の減少ということを考えた場合、現状の年六回の定例会だと、他の会合とバッティングしてしまい出られないことがあり、それが二回続くと、半年くらい例会に出られないことになる。かつて茗水クラブが月例会であったように、月一回の会合を持つように考えてはどうか？ 早急には無理であれば、総会とか駿台懇話会は例会とは別企画と考えて、それ以外に年六回の例会を開催して欲しい。

↓例会回数の問題のため、即答は難しいので、もう少し預からせて欲しい。(山口会長)

第三号議案については、全員異議なく承認された。

○第四号議案

その他
特になし。

以上

議事録署名人 二宮 忠
議事録署名人 中川 敏洋

平成 26 年度 活動基本方針

「より多くの明大の卒業生が、他大学にはない特別の愛校心を抱けるよう、卒業生、教員、職員、在校生など全ての関係者が団結し、相互に絆を深めるためのリーダー的役割を果たす」

① 【各種事業の実施】

会員の知識を広く深め、相互に交換し、会員の社会的地位の向上と社会への貢献を図るため大学の学術奨励、講演会・セミナーの開催、ボランティア活動の実施、親睦会の開催等、親睦会の開催等、各種事業を実施する。

② 【大学の発展への寄与】

大学の発展に寄与するため、学術奨励表彰を行うと共に、Joint Speech Program の

実施、学生の講演会への招待・啓蒙および国際人養成支援等を実施し、大学との連携を強化する。

また、適宜、大学への提言を行う。

③ 【大学との連携を強化】

大学との連携をより強く進めていくため、大学支援委員会を中心に、知的資産の運用やビジネスインターンシップの実施等に力を注いでいく。他大学とは「私立大学経済人連携会議」等という形で、知的資産の運用の連携も引き続き模索する。

④ 【ネットワークの構築】

校友関係組織の中で、本会を名実共にレゾン・デートルのある会として発展させるため、幅広いネットワークの構築に努める。

⑤ 【幅広い世代による運営】

会員増強を一層強力に進め、特に若年会員の勧誘に力を入れ、会員年齢構成をバランスのとれたものにし、企業交流を通じて会の活性化を図る。

平成25年度 連合駿台会 収支計算書

自：平成25年4月1日

至：平成26年3月31日

(単位：円)

収 入 の 部				摘 要 (収入の部)
勘定科目	予算額	決算額	予算比	
年会費収入	14,270,000	14,877,055	104.3%	(一般)264名、(地方)53名、(新入会員入会金)34名×@30,000=1,020,000円
例会費収入	2,420,000	3,401,000	140.5%	(一般例会)4回…1,693,000円 (60周年記念例会)1,708,000円
広告費収入	800,000	720,000	90.0%	名刺広告代 @10,000×63件=630,000円 @30,000×3件=90,000円
雑収入	20,000	17,715	88.6%	預金利息/MMF利息
当期収入計	17,510,000	19,015,770	108.6%	
前期繰越収支差額	43,058,734	43,058,734	100.0%	
当期収入合計	60,568,734	62,074,504	102.5%	
支 出 の 部				摘 要 (支出の部)
勘定科目	予算額	決算額	予算比	
I. 総務費				
(1) 家賃共益費	600,000	600,000	100.0%	紫紺館事務所家賃
(2) 人件費	1,915,000	1,985,000	103.7%	会報発行業務及び事務局関連業務委託費
(3) 事務通信費	1,160,000	1,217,689	105.0%	電話代/例会資料等発送費/振込手数料 他
(4) 備品消耗品	600,000	352,993	58.8%	発送用封筒代/文具代/会員ネーム作成代 他
(5) 印刷費	580,000	758,499	130.8%	事務局コピー機リース代/コピー用紙代 他
(6) 雑費	500,000	535,706	107.1%	事務局交通費/資料代 他
総務費計 (I)	5,355,000	5,449,887	101.8%	
II. 事業費				
1. 各委員会運営費				
(1) 総務・事業委員会費	6,000,000	10,295,880	171.6%	通常例会費・講師謝礼・忘年会費(4,429,290円)/60周年記念例会費・出演者謝礼(4,990,320円)/正副会長会・運営委員会費(486,799円)/その他(389,471円)
(2) 組織・会員増強委員会費	300,000	279,493	93.2%	
(3) 広報委員会費	2,500,000	2,390,600	95.6%	会報発行費(1,710,000円)/HPの維持・管理費(180,600円)/御茶ノ水JAZZ祭・ホームカミングデー・シェイクスピアプロジェクト(500,000円)
(4) 大学支援委員会費	2,750,000	2,054,794	74.7%	学術賞・学術奨励賞報奨金・副賞等(1,202,450円)/寄付講座(739,244円)/その他大学主催行事への支援(100,000円)/委員会費(13,100円)
(5) 財務委員会費	100,000			
各委員会運営費計	11,650,000	15,020,767	128.9%	
2. その他事業費				
(1) 慶弔費	100,000	65,750	65.8%	
その他事業費計	100,000	65,750	65.8%	
事業費計 (II)	11,750,000	15,086,517	128.4%	
III. 予備費 (III)	200,000			
当期支出合計 (I + II + III)	17,305,000	20,536,404	118.7%	
当期収支差額	205,000	-1,520,634	-741.8%	
次期繰越収支差額	43,263,734	41,538,100	96.0%	

平成25年度 連合駿台会 正味財産増減計算書

自:平成25年4月1日

至:平成26年3月31日

(単位:円)

科 目	金 額
I 一般正味財産増減の部	
(当期一般正味財産増減額)	-1,520,634
当期収支差額	-1,520,634
一般正味財産期首残高	43,058,734
一般正味財産期末残高	41,538,100
II 有志正味財産増減の部	
当期有志正味財産増減額	0
有志正味財産期首残高	18,000,000
有志正味財産期末残高	18,000,000
III 正味財産期末残高	59,538,100

平成25年度 連合駿台会 貸借対照表

平成26年3月31日現在

(単位:円)

資産の部		負債・正味財産の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
(流動資産)	62,340,790	(流動負債)	2,812,990
小口現金	102,854	未払金	2,803,820
みずほ銀行・普通預金	6,190,654	源泉預り金	9,170
ゆうちょ銀行・普通預金	5,591,652	(正味資産)	59,538,100
みずほ銀行・定期預金	38,000,000	正味財産	59,538,100
M. M. F.	12,455,630	1. 有志寄付金	18,000,000
(固定資産)	10,300	2. 繰越収支差額	41,538,100
電話加入権	10,300	(うち 当期正味財産減少額)	-1,520,634
資産合計	62,351,090	負債・正味財産合計	62,351,090

平成25年度 連合駿台会 財産目録

平成26年3月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
1. 資産の部			
(1)流動資産			
小口現金	102,854		
みずほ銀行・普通預金	6,190,654		
ゆうちょ銀行・普通預金	5,591,652		
みずほ銀行・定期預金	38,000,000		
M. M. F.	12,455,630		
流動資産合計		62,340,790	
(2)固定資産			
電話加入権	10,300		
固定資産合計		10,300	
資 産 合 計			62,351,090
2. 負債の部			
(1)負債の部			
未払金	2,803,820		
源泉預り金	9,170		
流動負債合計		2,812,990	
負 債 合 計			2,812,990
正 味 財 産			59,538,100

平成26年度 例会日程予定表

年	月日	開始時刻	会場	講師	備考
平成26 (2014)	7月16日(水)	18:00	明治大学「紫紺館」	様カーセブンディベロップメント 代表取締役社長 井上貴之氏	暑気払い
	9月18日(木)	12:00	明治大学「紫紺館」	調整中	
	11月19日(水)	18:00	明治大学「紫紺館」	未定	忘年会
平成27 (2015)	1月21日(水)	17:30	明治大学 アカデミーコモン	学術賞受賞者 記念講演	駿台懇話会
	3月18日(水)	18:00	明治大学「紫紺館」	未定	
	5月22日(金)	18:00	明治大学「紫紺館」	講演なし	総会

※ 4月23日に、総務・事業委員会主催の「第2回ビジネス勉強会」を実施。

※組織・会員増強委員会では、「若手の会」を開催予定。

※総務・事業委員会では、ビジネス勉強会、新入会員歓迎会、オープンゴルフコンペ、バス旅行などの親睦会を開催予定。

※駿台懇話会以外の会場はとりえず「紫紺館」を予定しているが、変更になる場合もあり。

平成26年度 連合駿台会 収支予算(案)

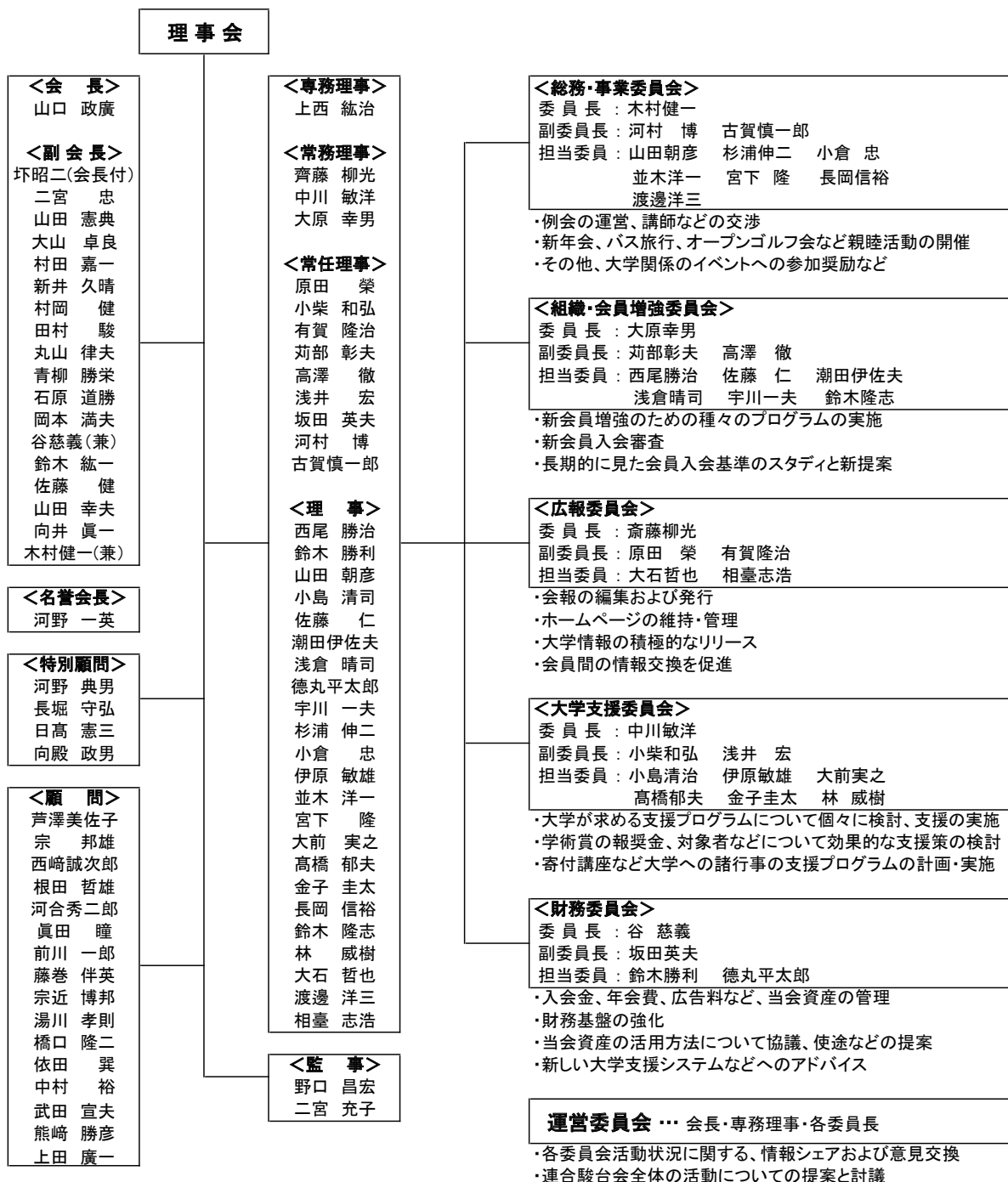
自:平成26年4月1日

至:平成27年3月31日

(単位:円)

収 入 の 部		摘 要 (収入の部)
勘定科目	予算額	
年 会 費 収 入	14,900,000	* (一般) 270名 × @50,000円 = 13,500,000円、(地方) 50名 × @10,000 = 500,000円 (新入会員入会金) 30名 × @30,000 = 900,000
例 会 費 収 入	2,420,000	* (夜例会) 4回 × (110名 × 3回 × @5,000 + 100名 × 1回 × @5,000) = 2,150,000円 (昼例会) 1回 × (90名 × @3,000) = 270,000円
広 告 費 収 入	800,000	* 名刺広告代 @10,000円 × 65件 + @30,000円 × 5件 = 800,000
雑 収 入	20,000	* 預金利息/MMF利息
当 期 収 入 計	18,140,000	
前 期 繰 越 収 支 差 額	41,538,100	
当 期 収 入 合 計	59,678,100	
支 出 の 部		摘 要 (支出の部)
勘定科目	金 額	
I. 総務費		
(1) 家 賃 共 益 費	600,000	* 紫紺館事務所家賃
(2) 人 件 費	2,200,000	* 事務局関連業務委託費及び会報発行業務費
(3) 事 務 ・ 通 信 費	1,200,000	* 電話代/例会資料等発送費/振込手数料 他
(4) 備 品 消 耗 品	400,000	* 発送用封筒代/文具代/会員ネーム札作成代 他
(5) 印 刷 費	750,000	* 事務局コピー機リース代/コピー用紙代 他
(6) 雑 費	500,000	* 事務局交通費/資料代 他
総務費計(I)	5,650,000	
II. 事業費		
1. 各委員会運営費		
(1) 総務・事業委員会費	6,000,000	例会費・忘年会費・講師謝礼等(4,300,000円)/正・副会長会・運営委員会費等(700,000円)/ 名簿発行費(350,000円)/各種事業費(500,000円)/諸経費(150,000円)
(2) 組 織 ・ 会 員 増 強 委 員 会 費	350,000	会員増強活動費(100,000円)/新入会員定着活動費(200,000円)/ 会議事務費(50,000円)
(3) 広 報 委 員 会 費	2,080,000	会報発行費(1,620,000円)/HPの維持・管理費(360,000円)/委員会費(100,000)
(4) 大学支援委員会費	3,350,000	学術賞・奨励賞賞金+副賞・お土産(1,700,000円)/寄付講座・懇親会(750,000円)/ 留学生支援等(300,000)/大学関連行事協賛金(500,000)/委員会費(100,000円)
(5) 財 務 委 員 会 費	100,000	委員会費(100,000円)
各 委 員 会 運 営 費 計	11,880,000	
2. その他事業費		
(1) 慶 弔 費	100,000	
そ の 他 事 業 費 計	100,000	
事業費計(II)	11,980,000	
III. 予備費 (III)	500,000	
当 期 支 出 合 計 (I + II + III)	18,130,000	
当 期 収 支 差 額	10,000	
次 期 繰 越 収 支 差 額	41,548,100	

連合駿台会運営組織表



—運営会構成—

1. 理 事 会…会長・副会長・専務理事・常務理事・
常任理事・理事・顧問・特別顧問・監事
2. 各委員会…委員長は常務理事(副会長兼任もあり)
副委員長は常任理事、担当委員は理事
各委員会は個別に委員会を開催できる
3. 必要に応じて、正・副会長会議を開催することができる

平成26年5月16日 現在

◆新入会員ご紹介

前回までの理事会で承認され、入会された方をご紹介します。
(敬称略・到着順)



多田 弘
昭和三十四年・農学部卒
東京ガスライフバル西大田(株)
代表取締役会長
東京都大田区在住



山崎 行雄
昭和四十六年・法学部卒
(株)テレビ神奈川
代表取締役社長
神奈川県横浜市在住



板橋 光一
昭和四十七年・法学部卒
(株)リゾート&メディカル
代表取締役
東京都豊島区在住



梅津 章
昭和四十七年・経営学部卒
社会医療法人ジャパンメディカルライアンス
担当部長
神奈川県横浜市在住



市川 治彦
昭和五十八年・政経学部卒
文化シヤッター(株)
執行役員人事総務部長
東京都足立区在住

◆計 報

当会の名誉会員・丸谷金保氏(昭和十七年・法学部卒、元参議院議員・元池田町長)が、平成二十六年六月三日に逝去されました。享年九十四歳。

ご冥福を心からお祈り申し上げます。

◆明大ニュース

●本学初 先端数理科学インスティテュートが文部科学省「共同利用・共同研究拠点」に認定

研究・知財戦略機構(機構長・福宮賢一学長)の付属研究機関「先端数理科学インスティテュート(MIMS、所長・三村昌泰特任教授)」が、文部科学省の「共同利用・共同研究拠点」に認定された。本学機関の同拠点への認定は初の快挙で、今後のさらなる研究推進や研究発信に向けて大きな弾みとなりそうだ。拠点名称は「現象数理学研究拠点」で、認定期間は二〇二〇年三月三十一日まで。

なお、数学・数理科学分野で拠点認定を受けたのは、京都大学、九州大学に次いで三

校目で、私大では初。同分野の発展への寄与も、大きく期待されている。さらに共同利用・共同研究拠点の認定と関連して、文科省の二〇一四年度「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業」スタートアップ支援によるMIMSへの補助金交付も決まった。交付決定額は二千七百九万五千円。

●国際総合研究所などが政策提言

『公海から世界を豊かに―保全と利用のガバナンス―』

明治大学国際総合研究所(MIGA、所長・林良造特任教授)と海洋政策研究財団(OPRF)が共催する「公海のガバナンス研究会」が、『公海から世界を豊かに―保全と利用のガバナンス―』と題する政策提言書を取りまとめ、六月十三日に東京都内で発表会見を行った。海洋酸性化や地球温暖化、生物多様性の消失などの危機に立つ公海の保全のため、日本や国際社会に取り組み強化を求める内容。同研究会は会見後、山本一太海洋政策・領土問題担当相に提言書を手渡した。

同研究会は、国際総合研究所の川口順子特任教授(元環境相、外相)と海洋政策研究財団の寺島紘士常務理事が共同代表を務め、明大関係者五人を含む各界の専門家や政府関係者ら十四人で構成。約一年間にわたり、公海を中心とする現在の海洋が置かれた状況

や、抱える問題点などを議論してきた。

八十ページにわたる提言書では、人類が引き起こした海洋酸性化や地球温暖化、違法かつ無秩序な乱獲による漁業資源の減少・枯竭など、公海をめぐる多様な問題の所在を指摘。さらに、公海の保全や持続可能な利用に向けた国際社会の取り組みや枠組み構築が不十分であるとした。その上で、国際社会における枠組みとして「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」の海洋版の設立や、海洋に関するハイレベル政府間フォーラムの設置、さらに国内では閣僚レベルの公海チームの設置、産学官民が協同で取り組む「公海フォーラム」の設立など、今後の取り組みに関する提言を行っている。

●明大などの研究コンソーシアムが、日本海の表層型メタンハイドレート掘削調査

研究・知財戦略機構ガスハイドレート研究所を中心とした表層ハイドレート研究コンソーシアム（明治大学・秋田大学・信州大学・千葉大学・東京大学・大阪大学・九州大学および独立行政法人産業技術総合研究所）は六月二十四日、掘削装置（リグ）を搭載した海洋資源調査船「白嶺」を用いて、日本海上越沖および最上トラフにおける表層型メタンハイドレートの掘削調査を開始した。

本調査は、国のメタンハイドレート開発

促進事業として平成二十五年度から実施されている「日本海の表層型メタンハイドレートの資源量把握のための調査」の一環として行われるもの。本研究グループは十年来、日本海に分布する表層型メタンハイドレートの学術調査を進めており、今年度はすでに日本海の広い範囲で高精度・広域の地形地質調査を実施。今回の掘削調査は、これまでの学術調査と地形地質調査の成果を踏まえ、表層型メタンハイドレートを含有する地質サンプルの取得を目指している。

●評議員六人を補欠選任

学校法人明治大学寄附行為第二十条および学校法人明治大学評議員選任規則第十三条の規定に基づき、評議員六人が補欠選任され、五月二十日付で就任した。

六人の内訳は、寄附行為第十七条第二項第二号に定める教職員一人、第三号に定める校友四人、第四号に定める学識経験者一人。（敬称略・五十音順・年齢は六月一日現在）

安部 悦生 (再)

一九七三年東京都立大学卒・六十四歳

経営学部教授

園田 英次 (新)

一九七一年政経学部卒・六十五歳

北斗産業(株)代表取締役

高橋 郁夫 (新)

一九七九年商学部卒・五十八歳

ダイアナ(株)代表取締役社長

徳丸 平太郎 (新)

一九七一年経営学部卒・六十七歳

徳丸織物(株)代表取締役

松原 隆治 (新)

一九七〇年商学部卒・六十七歳

大同産業(株)代表取締役社長

吉村 武彦 (再)

一九六八年東京大学卒・六十九歳

文学部教授

●二〇一三年度私大経常費補助金

明大への交付額は約四十五億円

日本私立学校振興・共済事業団は、二〇一三年度の私立大学等（大学・短期大学・高等専門学校）に対する「私立大学等経常費補助金」の交付状況を発表した。本学への交付額は、四十五億四千五百一十万円（前年度比三億五千三百五十六万四千円減）で、昨年に引き続き全国八位となった。

●春の叙勲・褒章

政府は二〇一四年春の叙勲受章者四千四百四人、褒章受章者七百七人を四月二十九日に発表した。明治大学の各県校友会支部等を通じて六月十六日までに報告された受章者は次のとおり（年齢は受章時のもの）。

▽旭日中綬章 荒木勇氏（元習志野市長。一九六〇年法学部卒・七十六歳）

▽旭日小綬章 竹内祐治氏（元境港市議会議員。一九五六年商学部卒・八十歳）、柳内光子氏（浦安商工会議所会頭。ガバナンス研究科在籍・七十四歳）、吉田弘氏（元埼玉県議会議員。一九六一年政経学部卒・七十六歳）

▽旭日双光章 高山實氏（東京ハイヤー・タクシー協会副会長。一九五七年商学部卒・七十九歳）、諸里正典氏（元十日町市長。一九六〇年法学部卒・七十七歳）

▽旭日单光章 山下哲郎氏（宮城県ボウリング連盟理事長。一九六〇年法学部卒・七十七歳）

▽瑞宝中綬章 小疇尚氏（明治大学名誉教授。一九六一年文学研究科修士課程修了・七十九歳）

▽瑞宝小綬章 三橋英夫氏（元関税中央分析所長。一九六六年商学部卒・七十歳）

▽瑞宝双光章 岡村正昭氏（保護司。一九六二年政経学部卒・七十四歳）、菊元五郎氏（岩国刑務所篤志面接委員。一九五七年商学部卒・八十歳）、澤田通泰氏（元日本郵政公社職員（特定郵便局長）。一九六六年商学部卒・七十歳）

▽黄綬褒章 山本逸三氏（司法書士。一九六四年法学部卒・七十三歳）

●OB社長

▽日信電子サービス（サービス業） 折原茂氏（一九七五年工学部卒・六十三歳）

▽神奈川新聞社（情報・通信業） 並木裕之氏（一九七九年法学部卒・五十八歳）

▽オリックス不動産（不動産業） 益子哲郎氏（一九七九年商学部卒・五十七歳）

▽中央精機（金属製品） 中川宏氏（一九七七年政経学部卒・六十歳）

●情報コミュニケーション学部一〇周年記念資料映像上映会

「女性法曹界の道を拓いた人々」

「明治大学専門部女子部の足跡」

情報コミュニケーション学部は五月三十日、学部創設一〇周年記念行事の一環として、資料映像上映会「女性法曹界の道を拓いた人々——明治大学専門部女子部の足跡——」を駿河台キャンパス・グローバルフロントで開催した。

この上映会は、女性の高等教育がなおざりにされていた時代に、「権利自由・独立自治」の理念のもと女性の地位向上、高等職業教育をめざして一九二九（昭和四）年に開校した明治大学専門部女子部の歴史をたどり、道を切り拓いた卒業生の活躍を後世に伝えようと企画されたもの。専門部女子部の精神を受け継ぎ二〇〇四年に創設された情報コミュニケーション学部が中心となり、ジェンダーセ

ンターの研究プロジェクトの一つとして、このたびDVDも完成した。上映会には、石川幹人学部長をはじめ、制作に携わった関係者や、女子部の後身である旧短期大学の卒業生らが参加。細野はるみジェンダーセンター長が「女性の社会進出をリードするような教育を提供していた明治大学の歴史を今の学生はあまり知らない。男女共同参画の時代に、この有益な遺産を若い世代に伝えたい」とあいさつした後、約一時間の映像が披露された。

●「大学は美味しい!! フェア」に参加

黒川農場・岡部特任教授が会場で講演も明治大学は五月二十八日から六月三日の七日間、新宿タカシマヤで開催された第七回「大学は美味しい!! フェア」（主催：NPO法人プロジェクト88）に出展した。全国各地の大学の研究から生まれた「大学ブランド食品」を紹介・販売するイベントで、明大のブースでは植物工場基盤技術研究センターや黒川農場、提携先企業で生産したルッコラ、ホウレンソウ、五穀米テンペなどを販売。「どの製品も質が良く、値段も安いのでお買い得」と担当者が店頭でPRしていた。

また、フェア出展に合わせて五月二十九日、黒川農場の岡部勝美特任教授が「人工光と自然光を活用したサラダホウレンソウの栽培システム」をテーマに会場で講演した。

●明大町づくり道場

五年目の活動がスタート

お茶の水・神保町界隈の町おこしを目的に活動している明大生有志の組織「明大町づくり道場」は六月七日、駿河台キャンパス・グローバルフロントで今年度のキックオフミーティングを行った。発足五年目を迎えた同組織は、本学校友で音楽家の宇崎竜童氏（一九六九年法卒）を道場主とし、宇崎氏が総合プロデューサーを務める「お茶の水JAZZ祭」など、駿河台キャンパス周辺で開催される各種イベントの企画・運営に携わっている。

●世界に広がる協定校

四十一カ国・地域二百三十七大学と協定

明治大学は、ガジヤマダ大学、ロンドン大学東洋アフリカ研究学院（SOAS）、ジョージア大学、チェンマイ大学と大学間協力協定を新たに締結した。協定校は四十一の国と地域で、二百三十七大学（学部間協定など含む）となった（六月十九日現在）。

●外交関係再開五十五周年を記念し初来日

ブルガリア副大統領が明大生に講演

ブルガリア共和国のマルガリタ・ポポヴァ副大統領が五月二十三日、「ブルガリアと日本の二国間関係―過去、現在、未来」と題した学生向け講演会を駿河台キャンパス・リバ

ティタワーで行った。

日本とブルガリアの外交関係再開五十五周年を記念して初来日したポポヴァ副大統領は、学生ら約百五十人に對し、スラブ語を語源とする文字や法典など、ヨーロッパ文化発祥の地ともいわれるブルガリアを紹介。百三十三年前の明治大学創立のエピソードにも触れながら、同時期を起点に広がった両国の友好的な関係の歴史と、EU加盟国としてのブルガリアの外交政策について講演した。

●政経学部 タイ三大学からの短期留学生受け入れ実施

政経学部は六月二日（二十七日、本学協定校のシーナカリンウィロート大学、モンクト王ラカバン工科大学、プリンスオブソンクラール大学（いずれもタイ）からの短期留学生二十五人を受け入れ、明大生との学術交流を行った。六月二日に行われたウェルカム・パーティーには、短期留学生、政治経済学部の「サポーター学生」と教員ら五十人以上が一堂に会し交流を深めた。

●商学部一〇周年特別企画「ビットコインは貨幣なのか？ 通貨の現在・過去・未来」

商学部は五月十三日、和泉図書館ホールにて商学部一〇周年特別企画・学術シンポジウム「ビットコインは貨幣なのか？―通貨

の現在・過去・未来―」を開催。ニュースなどでも話題の仮想通貨『ビットコイン*』がテーマだったこともあり、座席数百二十席のホールに立ち見が出るほどの盛況となった。

●国家公務員総合職試験

明大から二十五人が合格

人事院は六月二十三日、中央省庁の幹部候補となる国家公務員採用総合職試験の二〇一四年度最終合格者を発表。明治大学からは二十五人（前年度十六人）が合格した。うち女子は二人（同七人）。明大の合格者の試験区分別の内訳は、院卒者試験で「行政」五人。大卒程度試験で「政治・国際」二人、「法律」八人、「経済」七人、「工学」二人（うち女子一人）、「化学・生物・薬学」一人（女子）の計二十人。

二〇一四年度の試験の申込者数は二万四千十七人（前年度比千二百一人減）、合格者数千九百十八人（同百六十五人増）で、倍率は十一・〇倍（同一・七ポイント減）となった。女子の合格者数は三百九十九人（同五十七人増）。合格者数の出身学校数は百二十三校で、十人以上の合格者を出したのは三十二校。

●司法試験・短答式試験合格者

明大は全国五位の二百二十九人

法務省は六月五日、二〇一四年司法試験

の短答式試験（五月十八日実施）の結果発表を行った。明治大学の合格者は二百二十九人で、昨年と同じく全国五位だった。

総受験者数八千十五人（前年比三百六十二人増）のうち、合格に必要な成績を得た者は五千八十人（同百七十九人減）。合格率は約六三・四％（昨年は約六八・七％）、合格者の平均年齢は三十一・三歳だった。今後は、同じく五月に実施された論文式試験の採点が行われ、最終合格者は九月九日に発表される。

司法試験は、法科大学院修了後、または司法試験予備試験合格後の五年以内に、三回の範囲内で受験することができる。

●二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピック 大学連携協定締結式と記念シンポジウムを開催

「二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピック競技大会」に関する大学連携協定締結式と記念シンポジウムが六月二十三日、早稲田大学大隈記念講堂で開催され、協定を結んだ全国の大学・短大五百五十二校（同日現在）のうち、明治大学など約二百六十校の関係者が参加。各大学が今後、関連教育の推進や大会PR、選手の育成・輩出など多分野にわたって連携・協力していくことを確認した。

●大学院合同進学相談会を開催

法科・専門職大学院、国際大が初参加

大学院への進学を考える学生や留学生、社会人などに向けた合同進学相談会が五月三十一日、駿河台キャンパス・アカデミーコモンで開催された。今回は大学院の各研究科に加えて、法科大学院と専門職大学院、さらに2013年に系列法人となった国際大学（大学院大学）の2研究科が初めて参加。大学院をテーマとした特別講演や、各研究科の教員・大学院生による個別相談、奨学金制度の説明会、施設見学ツアーなどが行われ、約500人の来場者は熱心に情報収集をしていた。

●スケート部（アイスホッケー部門） 関東大学選手権

史上最多、二年ぶり二十四度目の優勝！

体育会スケート部アイスホッケー部門は四月二十九日、「秩父宮杯第六十二回関東大学選手権」の決勝戦で、中大との息詰まるGWS（ゲーム・ウイニング・ショット）戦の末、史上最多となる二年ぶり二十四回目の優勝を果たした。

●卓球部 世界卓球に二人の関係者が出場

男子の銅メダル獲得に大きく貢献！

四月二十八日～五月五日の八日間にわたって行われた「J A全農二〇一四年世界卓球団

体選手権東京大会」（会場：代々木第一体育館ほか）に、体育会卓球部の丹羽孝希（政経2）、OBの水谷隼（二〇一三年政経卒、DIOジャパン）の二人の明大関係者が日本代表メンバーとして出場、男子の銅メダル獲得に大きく貢献した。同大会は過去最多となる百二十五の国と地域（男子百二十、女子百）がエントリーして熱戦を繰り広げた。

●端艇部

全日本軽量級選手権「女子舵手なしクォドルプル」で連覇！ アジア杯では富田が「軽量級女子ダブルスカル」優勝

体育会端艇部は、五月十六日～十八日に開催された「第三十六回全日本軽量級選手権」（会場：戸田ボートコース）の「女子舵手なしクォドルプル」種目で見事、連覇を達成した。同種目決勝に進出した松岡結（文4）、久保奈津美（法4）、中尾真琳（農2）、植松香穂（文1）の四人は、スタートで他の艇に差をつけると、一度も首位を譲らない圧巻のレース運びで日本一に輝いた。

また、同時開催されたアジアカップでも、同部の富田千愛（政経3、U23日本代表）が「軽量級女子ダブルスカル」種目で川本藍（日体大）と組み、アジアの頂点に。最大の目標に掲げるインカレ勝に向け、女子の活躍が部全体を勢いづけた。

●卓球部

春季関東学生1部リーグ戦圧巻四連覇！

体育会卓球部は、五月十三日～十九日に開催された「春季関東学生1部リーグ戦」（会場：代々木第二体育館ほか）で、四季連続の優勝を果たした。

早大との優勝決定戦では、先に王手をかけられながら大逆転。苦しい戦いが続いたが、全員の力で勝利をつかみ取った。中でも、森蘭政崇（政経1）が殊勲賞、優秀選手賞、最優秀新人賞の「三冠」を獲得する大活躍ぶりだった。これで卓球部は、グランドスラム（春秋リーグ戦、インカレの三大会すべて優勝すること）への挑戦権を手にした。今年こそ、偉業達成を果たす。

◆駿台トピックス

● 坏前専務理事に花束を贈呈

五月十六日、総会後の懇親会で、三期・六年に渡って当会の専務理事を務めて勇退される坏前専務理事に、花束贈呈をしました。本当にご苦労様でございました。



◆五月総会出席者

青木孝、青木幹則、青柳勝栄、秋山隆敬、坏昭二、浅井宏、浅倉晴司、安達明正、阿部倫明、池田勝也、石川均、石橋良一、石原道勝、石原裕司、泉山和久、伊東正博、伊原敏雄、上西紘治、宇川一夫、潮田伊佐夫、宇敷和章、打出満、内田八郎、大石哲也、大原幸男、大前実之、大村託現、小倉忠、押田裕介、勝俣正義、金子圭太、菊部彰夫、河合秀二郎、河村博、木村健一、日下豊顕、小柴和弘、小島清治、根田哲雄、根田吉雄、斉藤春夫、斉藤弘之、齋藤柳光、坂田英夫、坂田政一、笹田学、佐藤和正、佐藤健、佐藤仁、眞田瞳、澤野太嘉嗣、椎名茂樹、志田憲彦、志村康洋、甚野捷、杉浦伸二、鈴木紘一、鈴木隆志、関根均、瀬戸正道、高澤徹、高橋郁夫、高橋徹、武内裕、谷慈義、田村駿、徳丸平太郎、富水流孝二、中川敏洋、長堀守弘、長見茂、中村欣治、中村豊、西尾勝治、西崎誠次郎、西澤豊、西山武夫、二宮充子、二宮忠、野口昌宏、橋口隆二、長谷川進一、馬場範夫、林威樹、原田榮、日高憲三、福田和彦、藤代耕一、前川一郎、松崎優子、摩尼和夫、丸山律夫、宮本浩二、向井眞一、向殿政男、村岡健、村山友彦、室井恵明、安河内究、山上雅隆、山口大介、山口政廣、山田憲典、山田朝彦、義江邦夫、吉田均

【編集後記】

連合駿台会も六十周年を迎えた。前身である若水クラブ、明友クラブが合流して今日を迎えたわけだが、会員交流、母校支援と課題は多い。今年度から役員も上西専務理事をはじめ、新体制でスタートした。課題はあるのが当たり前であり、また新しい目標に向けて、一歩一歩努力をしていきたいものだ。

今年の大学一般入試志願者数で、明大は近大に僅少差ながら首位を譲り渡した。受験生に対する人気もさることながら、学校にとって受験料は重要な収入源の一つであり、貴重な財源でもある。昨今の少子化で、十八歳以下の人口は二〇一八年から減少が加速すると言われている。それだけに学校経営の観点からも、長期的に高次元からの対策が望まれるところであろう。私が学生であった五十五年前の昭和三十四年の数字が手許にある。七学部で定員3330名、入学手続完了者4936名である。志願者は3万1074名となっている。昨今は八年間、志願者数は十万人を超え、入学手続き完了者も今年度は8334名となつて大幅に増加している。受験者数は実に三倍以上に増えている。その要因は女子学生の増加である。時代のニーズに適った新しい学部の設定、さらには校舎の建て替え・改修など、教育施設の整備なども重要な要因と思われる。受験者が集まれば必然的に偏差値も上がるし、優秀な学生が来る。かつて「二番ではダメなんです」と質問された国会議員がいたが、常に上を目指さなければ進歩はない。人気度を表す志願者数に一喜一憂するほどのこともないと言えはそれまでである。昨今の法科大学院のあり方は、ある意味でそれを示唆してはいないだろうか。

それやこれや、大学における学校経営も常に改革を迫られていることを忘れてはならない。

われら連合駿台会もまた心して、みずからの課題ともども、大学支援を見つめていかねばと思う。

（原田 榮）